

モグラ対策 1

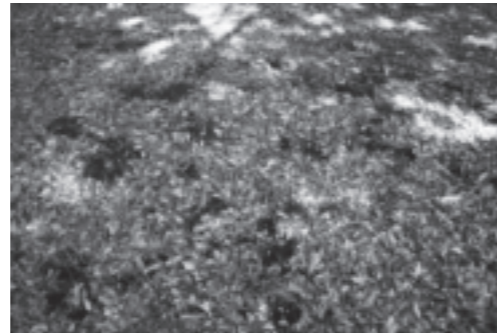
6月の農作業

日本に生息するモグラは数種類いますが、一般的に西日本に生息するコウベモグラと東日本に生息するアズマモグラが主で、他に体の小さいヒミズ種がいます。

モグラの被害は、地中に作られたトンネルによるものが多く、地中に空洞を作ることにより、農作物の生育に悪影響を及ぼします。モグラは肉食で、地中に棲むミミズや昆虫の幼虫を主なエサとしています。

モグラの特徴

- 一生のうちほとんどの時間を地中で生活する。
- 地中にトンネルを掘り巣を作る。
- 巣を作るときに出た土は、地上に出す。(モグラ塚)
- 地中で暮らしているため目はあるが、退化してほとんど見えない。
- 目が見えない代わりに聴覚と嗅覚が発達している。
- 大量のエサ(体重とほぼ同じ量)を必要とし、胃の中に12時間以上食べ物がないと餓死をする。

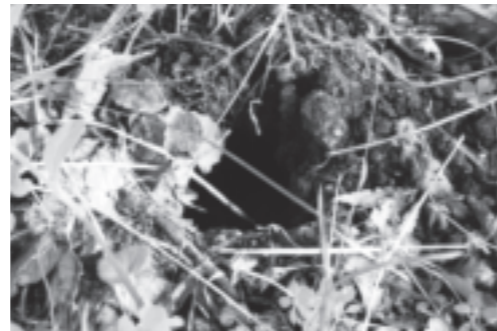


土を盛り上げたモグラ塚

モグラの被害

地中に空洞ができるため

- 土の保水力が低下し、作物の生育が悪くなる。
- トンネルに入ったネズミが農作物を食べる。
- 水田の畦に穴をあけ治水に影響を及ぼす。
- 根が十分に張れず、養分の吸収ができず生育が悪くなる。



地面にできたモグラ穴

モグラの巣

■ 巣の構成

モグラの巣は、いくつかの部屋とそれらを行き来するトンネルで構成されています。「エサを捕る場所」・「エサを蓄える場所」・「休憩する場所」・「水を飲む場所」・「侵入者から身を隠す場所」・「それらを行き来するためのトンネル」で構成されています。

トンネルの中には、縄張りとなる前述の場所をつなぐトンネルやエサを捕るために掘ったトンネル等があります。巣の各所をつなぐトンネルは本道、エサを捕るために掘ったトンネルは支道と呼ばれています。このため、本道のように何度も行き来するトンネルと、ほとんど利用がなかったり、一度きりしか利用しないトンネルもあります。したがって捕獲機を設置する場合は、利用頻度の高い本道に仕掛けましょう。

■ 巣を作る場所

モグラはトンネルの中に雨水が入るのを嫌います。雨水の浸入を防ぐため、木の根や小高い丘の下を中心に巣を作り、田畑(エサのある場所)に向かって塀や木などの障害物に沿ってトンネルを掘ります。そのため、障害物となる木の根や岩、ブロックなどがあり、トンネルを容易に掘り起こすことができません。また、一般的に春先から秋口は浅く、冬場は深くなります。

裏面はモグラ対策2を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.254 平成24年6月18日発行

モグラ対策 2

6月の農作業

モグラ退治の方法

モグラ退治の前に、モグラは地面の中にいるため巣(トンネル)を見つける必要があります。

■ モグラ塚を探す

巣を作ったり修理する際に掘り出した土を地上に押し上げるため、地上には土の盛り上がった場所が現れるため見つけやすい。

■ 地面の盛り上がりを探す

モグラが地中の浅い場所を掘り進める際、地面が少し膨らんだりひびが入った状態になります。主に塀などの障害物に沿った場所や、田畑の畦や畝に見られます。

■ 本道・支道を確認する

上記の場所を掘るとトンネルが見つかりますが、トンネルが頻繁に通る道(本道)か、めったに通らない道(支道)なのかを見分ける必要があります。

- 本道と支道を見分けるには、まずトンネルを埋めて地面を平らにします。モグラは本道が崩された場合、修復する習性があるので、再びトンネルを作ります。



モグラが通った後の地面の盛り上がり

モグラ退治

1. 臭いで追い払う

モグラの発達した嗅覚を利用して、匂いを発する野菜等を巣や被害の出る場所の周辺で栽培。また、通路に置くことでモグラを別の場所に移動させます。

2. 音や振動で追い払う

モグラの発達した聴覚を利用して、モグラの苦手な音や振動を出し別の場所に追い払います。音波の発生装置や風車(ペットボトルで自作可能)を本道に差し込む。

- 臭いを発しないため、家庭の庭などに最適です。
- 土質や土の中の障害物により、音が伝わりにくい場合があります。
- 設置後、モグラが逃げ場を探すため活発に動く場合があります。



畑に設置された手作り音波発生装置

3. 捕獲する

捕獲器を本道に設置し、侵入したモグラを捕獲します。モグラは匂いに敏感で、いつもの土の匂いとは違う捕獲器の素材や人間の匂いに違和感を感じ、捕獲器を避けて穴を掘る場合があります。設置の際は手袋をして、捕獲器を土にこすり付けて設置します。捕獲器の中にミミズを入れると、警戒心が弱まり捕獲しやすくなります。

裏面はモグラ対策1を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.254 平成24年6月18日発行